

平成27年度年間研究スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
武庫川 チャイルド スタディ					小2 観察							小3 質問票

すくすく
コホート
三重

※H27年度の研究費の獲得状況により、調査の有無を夏ごろにお知らせいたします。

編集後記

平成 26 年度最後のニュースレターでは、小学生になって起こりうる問題について考えてみました。保護者の方々の心配の多くは、子どもたちが成長するにつれて、学校でのこと、友だち関係のことへと変化してきているのではないのでしょうか？今回のコラムをご参考に読んでいただくと幸いです。

現在、私たちは質問票調査や観察調査を実施させていただくと同時に、これまでいただいたデータを整理・分析し、社会に発信する準備をしています。この研究にご協力をいただきながら、この先もみなさまと調査を続け、赤ちゃんが青年になり大人になる過程を明らかにしたいと考えています。

もしご住所や連絡先の変更がありましたら各研究チームへご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

武庫川女子大学子ども発達科学研究センターのホームページでも研究を紹介しています！

ホームページでは、これまでのすくすくコホート研究や、調査の実施状況、イベントのお知らせなどを発信しています。ぜひご覧ください。

武庫川女子大学子ども発達科学研究センター HP
<http://childstudy.jp>



【すくすくコホート三重】
〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL : 059-259-1159(内線 1402)

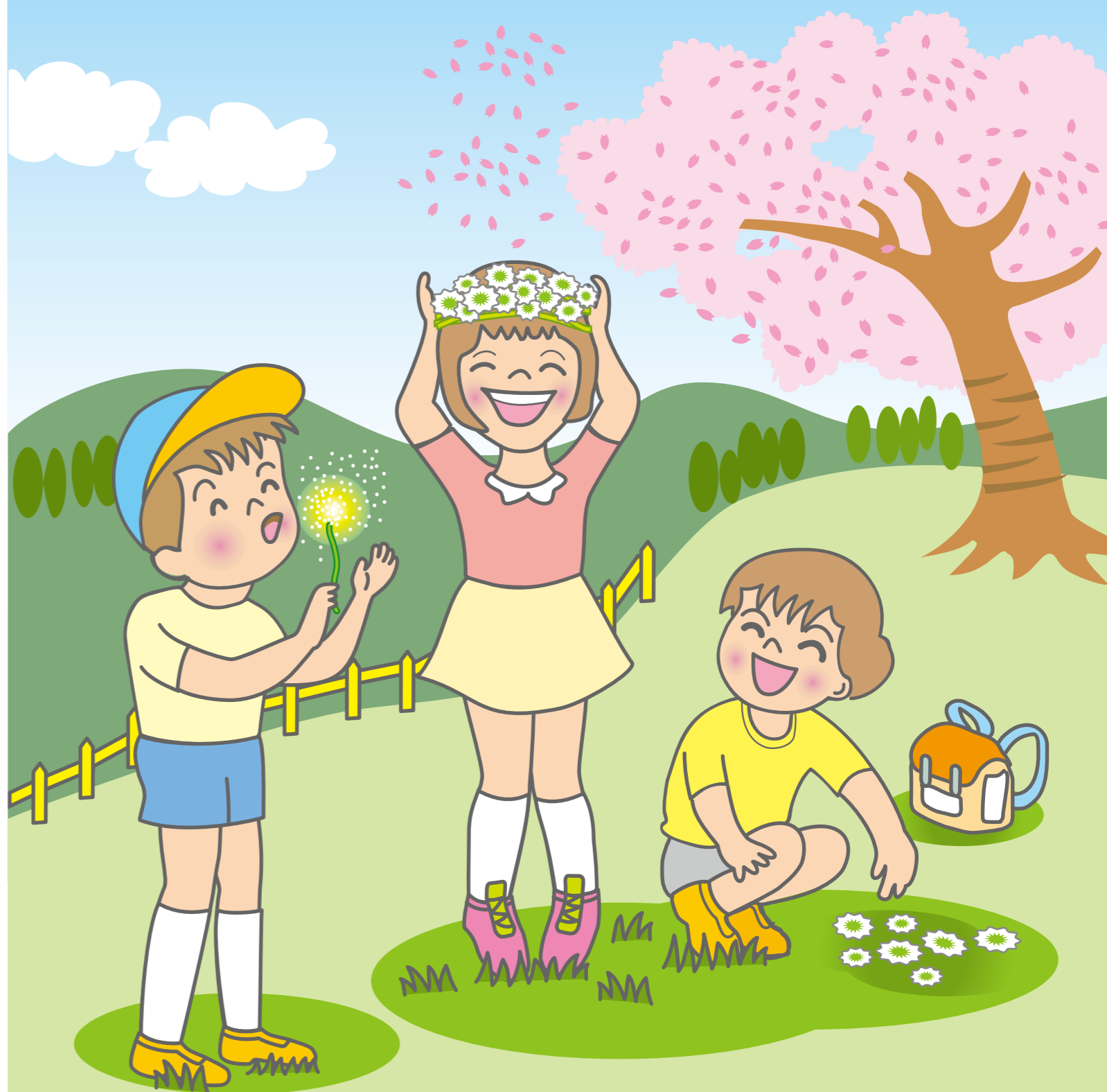
【武庫川チャイルドスタディ】
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター
TEL/FAX : 0798-45-9880 Email : info@childstudy.jp



すくすくコホート

平成26年度
春号

ニュースレター



春のおだやかな日差しが待ち遠しいこのごろです。みなさま、いかがお過ごしでしょうか？小学校では3学期も残すところわずかとなり、一年のまとめの時期になりました。今年度は三重県と兵庫県でご協力いただいている方の全員が小学生になり、小学1年生から早い方で4年生になりました。4月からは学年が上がり、ひとつ上級生になるわけです。この時期、お兄さん、お姉さんになることに子どもたちも期待や緊張があるかもしれませんね。

この一年、わたしの所属する『武庫川チャイルドスタディ』へ寄せられたご質問のなかには、学校での友達関係のあり方や、忘れ物が気になるといったご相談をお母さまから聞くことがありました。今回コラムで話題提供させていただいたように、子どもの発達段階や特性を理解し、どのように対応してあげればよいか参考にしていただけると幸いです。子どもたちの歩む道を、わたしたち大人が側からあたたかく見守ってあげられるといいですね。

さて、平成26年度の調査として大きなものとしては、『武庫川チャイルドスタディ』では小学1年生の就学後調査（郵送調査・年2回）を実施しました。小学2年生のみなさんは

約2年ぶりに武庫川女子大学へお越しいただき、夏休みを利用して知能検査と観察を行いました。この知能検査については12月に個人の傾向を発送しております。ご覧になられて、もう少し詳しく聞きたい、もっと専門的な発達のアドバイスを聞きたいと希望される場合は『武庫川チャイルドスタディ』までご連絡ください。

また、『すすくコホート三重』にご参加いただいているみなさまへは、研究の一旦終了の通知がございましたが、三重中央医療センターと武庫川女子大学が協力して今年度小学4年生20名と、3年生111名の質問票調査を2月に実施しています。来年度以降も質問票調査を中心に研究を継続できるよう研究資金の獲得を視野に入れて努力しております。

日本において、すすくコホートのような長期間の追跡研究はたいへん貴重なものとなっています。引き続き、われわれの研究にご協力・ご関心をお寄せいただくと光栄です。



「子ども研究員」と保護者のみなさまへ 協力継続のお願い

武庫川女子大学子ども発達科学研究センター 河合 優年
三重中央医療センター臨床研究部 山本 初実

ここで少し、これからの研究についてお話をさせていただきたいと思っています。

私たちの研究の目的は、子どもたちがどのように社会の中に出ていくのかを明らかにするため、赤ちゃんから丹念に追いつけるというものでした。これまでの調査は、お子さんのことを一番よく知っておられる保護者の方にお伺いすることがたくさんありました。しかし、これからの調査は、保護者の方への質問よりもお子さんへの質問が増えていきます。遊び盛りのお子さんにとっては、こまごまとした質問票に答えるのは大変なことかと思えます。しかし、あと少しの期間‘子ども研究員’として協力していただけるようお願いしたいと思っております。

なぜこれからの調査ではお子さんの協力がより必要になってくるのでしょうか。コラムでも書かせていただきましたように、小学校中学年ごろからは、子どもたちの生活は勉強場面でも遊び場面でも、友達との関係が密になり重要になってきます。同時に、感情の起伏も大きくなります。また、学校の時間割を合わせて宿題を忘れないというようなことも、しっかりと自分で出来るようになってきます。このような変化、大人に頼らず人との関係を調整したり、自分で感情をコントロールしたり、やりたくなくても先々を考えて計画を立てて行動したり、といったことができるというのは、今後、親から離れ自立していくために大変重要なことです。

近年の研究から、このような働きをつかさどっているのは、脳の前の部分、ちょうどオデコのあた

り〔前頭葉〕であることが分かってきています。そして、前頭葉が作りあげられるには長い時間が必要であることが分かってきています。思春期の感情の乱れや、期待と不安に激しく揺れ動くのは、このような脳の形成過程と密接に関係していると考えられます。

現在の所、『すすくコホート三重』、『武庫川チャイルドスタディ』には、脳の研究は含まれておりません。私たちは協力して下さっているお子さんの目を通して、これらの問題に取り組もうと思っています。子どもたちがどのように感じているのか、どのように考えて行動したのか、子どもたち自身が日頃の自分をどのように捉えているのかを振り返って答えてもらい、子どもたちの中で何が起きているのかを明らかにしていきたいと思っています。私たちが、お子さんを‘子ども研究員’と呼ばせていただいているのは、まさにこの部分にあります。

今みなさまが協力して進めて下さっている子ども研究は、完成までにはまだちょっと時間がかかるかもしれませんが、学校の先生や保育士、看護師、医師が子どもの発達を知るために役立つ、重要な発達の地図を作ることになります。お子さんによっては「こんなめんどうかい」「どうしてこんなことしなくちゃいけないの？」というようなことがあるかもしれません。そんなときには、この調査に協力することで、子どもたちみんなが楽しく過ごせるように学校をどうしたらいいかとか、これから生まれてくる小さな赤ちゃんをどうお世話したらいいかとか、そんなことを考えていくもことになるんだよ、というように意義をお伝えいただき、社会貢献となる行動を取れることは誇らしいことだ、と保護者の方からほんの少し子どもたちを後押ししていただくと幸いです。発達の地図の完成までご協力をいただけますよう、今後ともどうぞよろしくお願いたします。



適切な人間関係を築く力を育くもう！

友達に嫌なことを言われても、じっと黙っている子がいる。その子はとても優しい子なので、友達に強く言えなかったり、自分が我慢していればよい、というように思っていたりするのかもしれない。どうすればよいのだろうか。

これは、先日同僚と話していたときに、小学校の先生から質問を受けたということで出てきた話題です。その先生は、「優しさがあだになる」というようなことは良くないのだが、友達どうしの関係を調整させるための工夫が難しい、と悩んでおられたということでした。

このようなお子さんの場合、家に帰っても親に心配をかけないようにしようと何も言わなかったり、尋ねても答えてくれなかったりしがちです。しかし、いつもと様子が違うな…、ということで、保護者の方はご心配になられることもあるかと思えます。どうして言ってくれないのだろう、ちょっと相談してくれたらよいのに、と思われるかもしれません。しかし、お子さんがいわゆるギャングエイジと呼ばれる、仲間関係が重要な関心事になる時期にさしかかってくるのと、友達との約束やルールが優先になり、親との心理的な距離が少し遠くなります。そのため、家でも我慢してしまう、ということになってしまいがちです。

さて、このような状況を大人が知ったとき、つい「イヤって言いなさい」とか、「自分の気持ちを伝えなさい」というようなことを言いがちです。でも、なんて言っているのか、どのタイミングで言っているのか、言った後、言い返されたらどうしたらいいんだろう、もっと嫌なことがあったらどうしよう、お友達がいなくなったら困るし…、などなど、お子さんには、それを言えない何かがあるから何も言わずに我慢する方を選んでいるわけです。これは、単純に「イヤ」というだけで済んだ幼児期のやり方では通用しなくなってきた、ということをお子さんが分かってきているとも言えるでしょう。

それでは、我慢する、ということについて、これまでの研究から考えてみましょう。幼児期に観察室で実施した課題の中に、魅力的な物が目の前にあるのに、「触らないで待っていてね、あとでね」というようにして制止され、しばらく待たされる、というものがありました。2歳、3歳の頃はお母さまも観察室内にいらしていただきましたが、5歳、6歳の頃には一人で待っていてもらいました。待っている間、お子さんには、見たり、食べたり、触ったりすることを我慢してもらったわけですが、様々な方法を用いて待っていてくれました。ちらっと見るそぶりをしたり、ちょっと触って匂いをかいだり、目を瞑ったり、歌を歌ったり、椅子から立ち上がってみたり、「まだー？」と聞いてみたり、複数の方法

でなんとか自分の気持ちを調整し、待ち続けていました。そしてこれは、我慢している気持ちのそれぞれの表現とも言えます。このような、自分の気持ちをその場面に適した形に変形させて外に表現する、ということは、人とのコミュニケーションの場面でもとても大切なことです。嫌なことがあったとき、ただただじっと耐えることも、そして、「イヤ」という気持ちをストレートに表現することも、その子どもの一つの表現です。しかし、もしそうすることでストレスが高くなったり、難しかったりするのならば、問いかけたり、話題を変えたり、その場を離れたり、気晴らしをしたり、という他の表現の可能性を考えてみましょう。とはいえ、目の前のことに囚われてしまうと、他のやり方というのはなかなか思いつきにくく、また分かっているのに実行しにくいものです。先ほどの我慢の課題を使ったこれまでの研究では、「こういう風に

(別のことを考えるなど)して待っていてね」と、その子どもがまだ身に付けていないような、気を紛らわす方法を具体的に伝えて待ってもらった方がより長く待てる、というような結果も出ています。ですから、コミュニケーションの中での我慢を表現する方法も、少し離れた視点からのアドバイスがあるとよいかもしれません。

ところで、親や先生、大人を頼らないで、対等な友達関係を築く、というのは、これから青年期にかけてとても重要な課題です。これからたくさんさんの経験をして、自分なりの友達との関係調整の方法を身に付けていきます。ですから親はもう介入せず

に、見守るのが良い、というわけではありません。自立していく方向によく動き出した、というところです。友達との関係を調整するための方法は、まだ多くは持っていないから、対処できないことも出てきます。大人に頼らず自分でなんとかしたい、と思うけれども、うまくいかない。そんな時に「こうしなさい！」では耳を貸してくれないかもしれません。「もしこんなことがあったら、こんな方法もあるよ」「お母さんは、この間嫌なことがあったときはこんな風にしたよ〜」と、ちゃんと見てるよ、というサインも出しつつ、さりげなく選択肢の幅を広げてあげることで、少し気持ちが楽になるかもしれません。

お子さんの成長に合わせて、私どもの研究グループの中心も児童心理学や青年心理学が専門のメンバーに移り、質問票でお伺いする内容も、小学校4年生では思春期に向けた内容も含まれるようになってきています。児童期・思春期の問題についても対応できるスタッフがおりますので、これまで同様、何か気にかかることがあれば、ご遠慮なくご相談ください。



コミュニケーションの選択肢を広げてみよう

